

道立高校の養護教諭として活動を知り、その重要性に注目したのが当時北海道教育大学札幌校に着任した福井雅英教授(臨床教育学)でした。

貧困や格差拡大、人が人として育ちあうことがむずかしくなった学校や社会の中で、必死に生徒とつながりを深めようとしている山形さんの教育実践を、10年の歳月を掛けていねい

「子どもたちの声に耳を傾け、どう子どもたちに寄り添い、つながりをつくっていくのか?」

札幌市内の道立高校で養護教諭として働く山形志保(ペンネーム)さんの日々の実践を紹介した本、「保健室から創る希望」が今年7月に新日本出版社から出版され、好評を博しています。

本の紹介 「保健室から創る希望」が出版されました!



「魅力づくり」「特色づくり」の看板である総合学科やアンビシャススクールは復元される一方で、減ぜられたまま単位制からの離脱を余儀なくされる白陵の存在は、「魅力づくり」「特色づくり」が学校存続の切り札にはなりえない実態を表しています。25年には普通科フィールド制も完全に姿を消します。

いすれにせよ、ここ数年間、復元措置を講じてこなかった結果、学級削減計画のない年度でも、2次募集後の欠員による学級減がスリートに石狩学区の「厳しい競争環境」を悪化させ、「競争」はいっそう激化します。中卒者の動向をもとに作成している高校配置計画に学級減の計画がなかった場合は、2次募集後の欠員による学級削減は原則として翌年度は復元すること重要です。

少子化がすすむなか、40人学級を前提として石狩学区内の公立高校数で中卒者数を割り返すと、1校当たりの学級数は定時制を含めて1学年7学級を切っています。学級減や教職員定数減を行うのではなく定時制や小規模校など可能な学校から少人数学級を導入することは十分検討する価値があります。学校により多少の差が出ることはあり得るとしても、最大8学級、最小2学級という石狩学区のいびつさは早急に正さなくてはなりません。

保健室から創る希望 新日本出版社 福井雅英・山形志保=編著 定価 1760円

『笑顔輝く、子どもと大人の未来』一信じられる人々とのつながりあいを求めて-

さっぽろ<子育て・教育>市民フェスティバル2023

日時: 10月9日(月)14時~16時 会場: 高等学校教職員センター ※Zoom参加はミーティングID: 863 5823 5537 パスコード: 832967

「保健室から創る希望」出版記念対談 いまそこにある『希望』

共著者の福井雅英さんと山形志保さんをお招きして対談していただき、生きづらさに満ちた学校や社会の中で、希望を紡ぐつながりをどのように展望していくかについて、豊富な実践をもとに語っていただきます。ご参加お待ちしております。

主催 さっぽろ<子育て・教育>市民フェスティバル2023 実行委員会

2023年度 北海道高教組札幌支部教育研究集会

動く支部教研2023

動く支部教研復活!今年をちょっと遠出し、札幌・石狩圏を飛び出し、白老町ウボポイへ、仲間との学び合い!遊覧・体験型教研!楽しいですよ。

日時: 9月23日(土) 9:00出発~17:00帰着 見学場所: 民族共生象徴空間ウボポイ(白老町若草) 集合場所: 9:00 バス出発高等学校教職員センター前 9:15 JR札幌駅北口 10:30 いざないの回廊カンカン前 自家用車利用者とともに入場 見学日程: 11:00~12:30 国立アイヌ民族博物館見学 12:30~13:30 昼食 13:30~15:00 自由見学 国立民族共生公園で、お好みの企画を体験 15:00 ウボポイ出発 17:00 高校教職員センター帰着・解散 参加対象: 札幌支部組合員とその家族、高校生 参加費: バス代金・入場料・昼食補助(1000円)は札幌支部で負担。実費のかかるプログラムは自己負担となります。 参加申込: 参加者は9月19日(火)までに札幌支部(090-8502-0234)へ

国立アイヌ民族博物館 先住民族アイヌを主題とした日本発の国立博物館。先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与することを理念として掲げています。 国立民族共生公園 古式舞踊等の上演や多彩なプログラムを通じて、アイヌ文化を体感しながら学ぶことができるフィールドミュージアムです。 伝統的コタン アイヌの伝統的な集落が再現されたスポットです。写真の家屋は何と呼ばれていますか? ①チャランガ ②クマサイ ③チセ

高校配置計画が出ましたが... どうする! 小規模学校の存続! 学校規模のアンバランス! 強まる競争圧力!

9月6日に2024年度(2026年度)の高校配置計画が発表されました。石狩学区については、2次募集後の欠員により今年度学級減となった4校のうち、野幌高校と石狩翔陽高校については、久々の石狩学区での復元措置が講じられました。白陵高校と北広西高校は復元されませんでした。

「魅力づくり」「特色づくり」の看板である総合学科やアンビシャススクールは復元される一方で、減ぜられたまま単位制からの離脱を余儀なくされる白陵の存在は、「魅力づくり」「特色づくり」が学校存続の切り札にはなりえない実態を表しています。25年には普通科フィールド制も完全に姿を消します。

開業から3年! ウボポイを訪ねてみませんか?

「アイヌ施策推進法」の施行翌年に開業し、今年、開業3周年を迎えた「民族共生象徴空間ウボポイ」。「国立アイヌ民族博物館」、「国立民族共生公園」、「慰霊施設」で構成されています。開業初年度は教育旅行で

600校余りが訪れていますが、最近是一般旅行、海外からの来訪者も増えているようです。「同化政策」をすすめた国が、法律にアイヌを先住民族と明記し、アイヌの誇りが尊重される共生社会をめざすとしたことは重要です。 昨年11月に開催された「北海道合同教育研究全道集会」では、「当事者から見るアイヌ施策と教育」文化偏重の施策・教育を問い直す」と題した特別学習会が行われました。そこでは、こうした積極的な面と同時に、アイヌ施策推進法施行後も先住権や遺骨問題、差別解消の議論は進まず、施策の中心は文化振興と経済活性化に置かれている点が指摘されていました。実際、今年7月30日付の「道新」は、「無意識の差別 心に傷」の見出しで、ウボポイ職員体験を取り上げ、「マイクログレッション」の影響にも触れていました。アイヌ政策と教育のあり方はまさに今日の問題ではないでしょうか。

北海道高教組札幌支部の「動く支部教研2023」は9月23日に、このウボポイで開催します。折しも特別展「考古学と歴史学からみるアイヌ史展」19世紀までの奇跡」が開催されています。参加対象は札幌支部組合員とそのご家族、高校生です。当日は、札幌から貸切バスも運行します。参加を希望される組合員の方は9月19日まで、高教組札幌支部(090-8502-0234)まで直接申し込んでください。3ページチラシを参照

アイヌ民族博物館」の第一言語はアイヌ語。アイヌ語が公用語となった空間に身を置き、展示を手がかりに北海道の歴史と多様性について考え、語りあい、学芸員さんに尋ねてみませんか。

